



大好きな保育の仕事 自分が頑張る姿を 子供たちに見せたい



【写真①左から】伊藤大河くん、佐々木志樹くん、山崎然くん、前川煌希くん

使ったランバイクを一生懸命洗う園児たち（写真②）
ランバイクのゼッケン番号は園児たちが希望して決めた。
華帆さんの17番、仁さんの1番は多くの子が希望

「大切に使わないといけない。華帆先生もバイクをきれいに洗って大切にしている」
「仁くんのように大きくなったらバイクに乗ってみたい」
「2人が一位になれるように応援する」

小さい頃から抱いていたもう一つの夢。それは保育園の先生になる事でした。親戚同士で集まると、お姉さんとして面倒を見る立場になることが多く、小さい子と遊んであげる事が好きだった華帆さんは、大学で幼児教育を学び、今年度から念願だった保育士として働いています。



突然現れたモトクロスライダーに驚くも、華帆先生だと分かれると園児たちは大興奮



職場では、先輩たちの姿を見ながら保育の仕事に奮闘。広い視野で子どもたちに目を配る事や、簡単な言葉で、受け止めてもらう声掛けをする難しさを感じています。華帆さんは子供たちに、自分が達成したいことをどう頑張るか、自分の姿を見せる事で夢や目標を持つようになって

もらえたらうれしいと話します。

園では、園児の体験の場として、華帆さんと弟の仁さんがサプライズでバイクに乗って登場し、デモンストラクションをする企画を行いました。不思議そうに見つめる中、ヘルメットを脱ぎ華帆先生が顔を見せると、園児たちは大興奮。正義のヒー

ローに出会ったかのような顔で、二人の話聞きましました。

う得難い体験は、園児たちの行動に変化を与え、成長の糧となりました。

園では、足で蹴って進むランバイクが大人気。本物のバイクに出会って以降、「華帆先生や仁くんみたいにになりたい」と以前にも増して取り合いになります。さらに変化があったのは、道具を大切にする意識。バイクを毎回きれいに洗って、大事に整備しているという二人の話聞いた園児たちは、率先してランバイクを洗うようになりました。

華帆さんのご両親がモトクロスの応援に込めたのは「強く育ててほしい」という願い。肉体だけでなく精神的にも強くなければできないこの競技は、やり通せば他のどんな事も乗り越えられる。華帆さんは父の姿を見て夢を抱き、真つすぐに力強く歩んできました。

「自分が夢に向かう姿を子供たちに見せたい」と話していた華帆さん。モトクロスレーサーとの出会いとい

たその姿は、子どもたちに夢を持つことの大切さを教え、新たな世代のたくましい成長へとつながっていきます。



子どもたちの世界が広がった

おおつちこども園
八木澤弓美子 園長

昨年の9月に実習に来てもらった時、「子どもたちをよく見てるな、気づく力がある子だな」と感じて、ぜひ園で働いてほしいと思いました。

モトクロスは趣味でやっているぐらいだと思って聞いていたら、まさか全日本選手権に出るような人だったとは…びっくりしました。今はすっかりファンで、全力で応援しています。園児たちが大人もあまり知らないような高いレベルに触られることはとても貴重なこと。将来に向け夢を持ち始める子どもたちの世界が大きく広がったと思います。いつか実際のレースに園のみんなで応援に行きたい！

